

第 3 回逗子の未来協議会

グループワーク「逗子のまちがよくなるために、市民はどうあるべきか」  
(模造紙＋発言概要)

テーマ① 豊かな自然環境に囲まれた暮らし

※逗子に移ってきて子どもが健康になったとか、最近では自然が失われてきているということからこのテーマを選択。

**自然に対する意識を高める共通認識の形成**

- ① 最近の課題として、宅地が代替わりすると土地が細分化され、庭が減って緑が失われてしまうので、市民として木を植えるという意識を高める。
- ② 里山の保全を行う。災害時に木が植わっていると効果があることから、常緑の広葉樹を増やし、小さな生物（カニ、ホタル等）に目を向け、自然に対する市民の意識を高めて、共通認識を形成する。
- ③ 特別緑地保全地区の指定活動を推進する。

**① 守る費用がかかる→税収アップの必要**

豊かな自然環境を守るにはお金がかかる → 税収をあげるにはどのようにしたらよいか → 逗子は宣伝が下手なのではないか → Google で検索したらトップに出るような情報発信が必要。ただし、市民の誰がやるのかは問題。

**② 自分たちで自ら管理する**

市民が“労力”で、緑を守る体制が必要なのではないか。自ら守るということをいかに発信し、緑を守っていくということ。

**③ イベント情報の一元化 高校生、大学生の参加**

**① 開発による森林減少→木を植える活動(市民単位)、今ある住宅地に緑を作る**

昔より緑が減っているので、市民単位による緑化運動を活発化させたらいいのではないか。

**② 市と市民で緑を守る(協働)**

空き家を活用して若い世代を呼び込むときに、市が庭の造成に対して助成をしたり、近隣住民も緑を守るということを新住民に話したりして、市と市民との両方で緑を守るようにするとよい。

**③ 「緑を守る」という意識作りを発信、一人一人ができることを活動する**

市民として、逗子市の魅力＝“緑を守る意識”をどんどん発信していけたらいいのではないか。

## テーマ② コミュニティなど人の交流が盛んな暮らし

※行政に頼らずに自分たちでできること、行政では解決することが難しいことについて、行政に提案しても実現が難しく効果が測りにくい点について話し合った。

- ① **地域の人たちで行動して、お互いのことを見守ることができたらいいね**  
地域の方々同士で、小さな子どもから高齢者まで見守りができるようなコミュニティができればよい。
- ② **挨拶**  
挨拶をお互いにできるようにしていく。

- ① **世代間交流を深めたい**
- ② **子ども会の復活・再生**  
世代間の交流を深めていくために、子ども会を復活させたり、盛り上げたりする。
- ③ **お祭りに若者を集めよう！**  
お祭りにも若い人たちにも参加を呼びかけて、お祭りを通して世代間交流を行ったり、子どもたちと話し合ったりして、コミュニティを深めていく。

※逗子については、様々な団体が活躍しているが、その一方でそうした団体に入りたいけれど入れないという意見があることから話し合った。

- ① **周知方法が大事**  
団体にみんなが入っていけるような周知方法や声かけが大事。
- ② **年代間問わず関われる場を作る(3世代)**  
団体についても、それぞれの年代で固まっていて世代間交流がないため、イベントなどで年代を問わず関われるような場が必要である。

- ① **参加意識が大切**  
参加意識が大切。どうしたら参加したくなるか。年齢構成別に参加でき、交流ができること。また、外国人との交流ができるよう、他を受け入れる意識が必要。
- ② **場の提供**  
場の提供も大切。お祭り、催しの場所なども資金も必要。
- ③ **健康の維持**  
健康の維持が大切。健康の維持は、他の取り組みにも関係してくる。

① 各地区に自治会・町内会はある？

各地区に住民自治協議会を土台にして、コミュニティを活発にしていけばよいのではないか。住民自治協議会には若い人の担い手がいないので、若い人をどうやって取り込んでいくかが大事。

② 高齢者、若い母→孤立しがち

高齢者や若いお母さんが孤立しがちなので、ボランティアの集まりなどでコミュニティを広げていくことも一つの方法ではないか。

① 情報の発信と活用、実行やイベントを行う。

② 住民自治協議会を活用して深めていけたらよい。

③ コミュニティの中のキーパーソンが重要。まとめ役が魅力的であれば参加者が増えるが、誰もがリーダーシップをもって人任せにしなければ、誰がリーダーであってもいいまちになる。一人ひとりが積極性や思いやりをもっていられたらよい。

### テーマ③ 安全で安心な暮らし

#### ① コミュニティ作り

楽しいコミュニティがあれば挨拶が生まれ、人の顔が見える。防犯カメラも必要ない環境がつかれる。

#### ② ゴみの集め方、適正な規模(戸数)

ごみの集積所がきれいなところは、コミュニケーションができているところ。ひいては安全につながっていくので、ごみの集め方が大切。

#### ③ 若い人が参加する

若い人が参加できるような自治会の作り方が大切。自治会は、負担が増えるなど難しい問題をはらんでいるので、無理をしなくてもできるようにするとよい。

#### ① 一体となる声かけ

防犯は、挨拶や声かけから始めていきたい。

#### ② まずは自分たちから始める

自分たちの家が狙われるかもしれないという意識を、まず自分たちから持つ。

#### ③ 若い人に来てもらう

空き家を減らすためには、若い人たちに来てもらえるとよい。

#### ① 防犯カメラの整備の重要性(市が主導して地域の整備を)

犯罪防止のために防犯カメラを設置する。費用がかかるので、地域の人たちがまとまって市や県に要望していく。

#### ② 狭い道路の整備(交通インフラの整備)

道路事情の改善。安心して通れる道。渋滞をなくすために、交差点の改良をしてほしい。ミニバスをもっとさかんに通してほしい。

#### ③ 防災無線が聞こえない(防災環境の整備)

防災行政無線が聞こえないので、もっと聞こえやすいようにしてほしい。

#### ① 空き家、ゴミ屋敷対策(権利と義務の遂行)

空き家、ゴミ屋敷については、市民の権利と義務について、どうやって市民同士で市民の民意を上げて減らしていけるか。

#### ② 総合病院の受け入れ(合意形成)

総合的病院については、その必要性には反対しないが、いざできるとなると近隣住民の反対があるので、どうやって合意形成をとっていかかが重要。

#### ③ コミュニティの見守り(小学生の登下校時等、高齢者の独り住まい)

子ども、高齢者の見守りについては、見守り隊をつくるのではなく、自由に市に報告できるような仕組みをつくり、いろいろな人が見守り隊として動いているということを広報して、犯罪の抑止につなげるなど、市民の民意を上げていくことが重要。

※市民主体として何ができるか、市の特色を活かしたもの（デメリットをなくすようなこと）ができる。

※①～③いずれもコミュニティ活動を盛んにしていこうというテーマとも関連する。

- ① 高齢化が進んでいるため、健康維持として、グループで健康促進できるような活動の機会や場所がつかれるようにしたい（市民と市が協力して）。
- ② 自然が豊かではあるが自然災害が怖いので、市で公開しているハザード情報をコミュニティ単位で共有して、実際の行動に移せるようにしていきたい。
- ③ コンパクトシティだが、悪く言うと道が狭い。自転車事故を減らせるよう、歩行者・自転車・自動車が分離できるような道路を住民から働きかけができないか。